

---

# F E 支援会話

オズ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

FE支援会話

### 【Nコード】

N1973B

### 【作者名】

オズ

### 【あらすじ】

こんな会話があつたらいいな〜と、想像しながら作ってます

！！！

## ニニアン&ロイ(前書き)

親子支援会話です。Bまでですけどねーカップリングは幾つか決まっております。そう言えば、ニルス＝フォルセティ説とかもいいなと思います。

## ニニアン＆ロイ

ニニアン＆ロイC

〔ロイ〕

母上、お体は大丈夫なのですか？

〔ニニアン〕

ええ、今日はとても調子がいいの

〔ロイ〕

見て下さい、花を摘んできました

〔ニニアン〕

まあ、こんなたくさん…ありがとうございます、ロイ

〔ロイ〕

そう言えば、母上は、イリアのお生まれでしたよね？

〔ニニアン〕

ええ…

〔ロイ〕

ご存知だと思いますけれど、

リリーナの母上、フロリーナ様もイリアのお生まれだと聞きました。  
それでリリーナと、何だか不思議だねって話をしていたんです

〔ニニアン〕

…？

〔ロイ〕

父上とヘクトル様も同郷、母上とヘクトル様の奥様であるフロリーナ様も同郷、

そしてお互いに仲がよろしいのですから、

きっと四人とも出会うべくして出会ったのでしょうつて

〔ニニアン〕

まあ、くすくす

〔ロイ〕

母上は、キアランの公女リンデイス様をご存知ですか？

フロリーナ様の親友で、草原に帰られたとか

〔ニニアン〕

ええ…リンデイス様にも、とても親切にして頂いたの

〔ロイ〕

母上、その方の話、もっと聞かせて下さい。リリーナに聞かせてあげらるんです

〔ニニアン〕

もちろんよ…リンデイス様はね…

ニニアン&ロイB

〔ニニアン〕

ニルス…

（ロイ現れる）

「ロイ」

母上、あまり動かないで下さい。体に障りますよ。

「ニニアン」

ありがとうございますロイ、こんなに心配してくれるなんて・・・あなたは本当に優しい子ね。

「ロイ」

そんな事はありません、心配するのは当然です、乳母のレベツカやウォルトも心配していました。ウォルトから聞いたんですが、ウォルトはお父さんのロウエンと一緒に、

体力のつくいい食材をしょっちゅう探しに行っているそうですよ。

「ニニアン」

そうだったの・・・あの人達にもますます感謝しないといけないわね

「ロイ」

そうですよ、だから早く元気になって下さいね。母上が早くお元気になられる事が、僕や父上、そしてお祖母様や皆の願いなのですから。

「ニニアン」

ありがとうございます。ねえロイ、どうかお父様の・・・エリウッド様のお力になってあげてね。

「ロイ」

はい、もちろんです。父上は僕が尊敬する方ですから。母上、ニルスとは、どなたです？

「ニニアン」

ニルスと言うのはね、私の弟の名前なの。

「ロイ」

母上には弟君がいらしたのですか？

「ニニアン」

ええ・・・懐かしいわ。もう、いないのだけれど・・・。

「ロイ」

！ごめんなさい。

「ニニアン」

くすくす、いいの・・・謝る事じゃないわ・・・。

私こそ体を壊してばかり・・・あなたに何もしてあげられない私を許してね。

「ロイ」

母上・・・母上がいて下さるだけで十分です。

## ウハイ&ギイ（前書き）

味方になったウハイと、同じ草原の民ギイとの話です。

## ウハイ&ギイ

ウハイ&ギイC

〔ギイ〕

あ、あんた！えーっと…えーっと…

〔ウハイ〕

…ウハイだ

〔ギイ〕

そーだ！ウハイのおっさん！

〔ウハイ〕

お前は、クトラ族のギイ、だったか。何か用か？

〔ギイ〕

べっつに〜。同じ草原の民だから何となく

〔ウハイ〕

…そうか

〔ギイ〕

おっさんは、草原を出てどんくらいになるんだ？

〔ウハイ〕

そうだな…もう十数年ぐらいだ。お前は、どれくらいになる？

〔ギイ〕

えっと、3年になるかな。おれは修行のために旅に出たんだ

「ウハイ」  
成る程、技に迷いが無く見えるのは、その強い心のせいか。  
まだ子供のようなのに、大したものだ

「ギイ」  
へへっ照れるだろ〜！…あ！でも子供扱いすんなよな〜

ウハイ&ギイB

「ギイ」  
なあおっさん、おっさんには家族がいるのか？

「ウハイ」  
妻が一人いる。お前と同じクトラの女だ

「ギイ」  
本当か！？そりゃ偶然だな！…もしかして、俺の知ってる人かな？

「ウハイ」  
それは…どうだろうな。深く聞いた事はないが、草原を離れて随分  
経つようだ。

もしかしたら、お前の生まれる前かもしれん

「ギイ」  
ふ〜ん、そっか

「ウハイ」  
…草原が恋しいか

「ギイ」

そっそんな事ない…！

「ウハイ」

そうか、お前は強いな

「ギイ」

？おっさんはどうなんだよ？

「ウハイ」

草原を出た当時は、もはや草原に未練は無かった筈なのにな…  
不意に、帰りたいと思う事がある。良き友人達に囲まれ、  
草原より居心地のよい場所にいると分かっているだけでもだ

「ギイ」

えっおっさんも！？あっいいいよ続けて続けて！

「ウハイ」

『草原の民の心を、草原から離れさせるのは容易ではない』  
と、他国の人間にまで言われている通りだと、そして改めて自分は  
草原の民なのだと感じた

「ギイ」

うんうん、俺も本当にそう思うよ

ウハイ&ギイA

「ギイ」

なあ、おっさんはこの戦いが終わったらどうするんだ？

「ウハイ」

まずは、妻のもとへ帰る

「ギイ」

そりゃそうだよな。俺はどうしようかな

「ウハイ」

…お前の同族に、いるならば家族に、元気な顔を見せてやれ

「ギイ」

うん。まあ、それもいいか。なあおっさん、奥さんクトラへ長く戻ってないんだろ？

「ウハイ」

ああ。

「ギイ」

一度おっさんと、おっさんの奥さんと一緒にさ、クトラへ来たらどうだ？

「ウハイ」

俺がクトラへ？

「ギイ」

絶っつ対仲間外れなんかないから大丈夫だぜ、何せ同族は家族だろ、おっさんと俺も家族だ！

「ウハイ」

ふふっ

「ギイ」

?何だよ?

「ウハイ」

俺にもお前のような、元気で心の広い子が欲しいものだ、と考えていた

「ギイ」

えっ俺の心が広い?へへ…って、だーかーらっ子供扱いすんなって  
言っただろっ

「ウハイ」

ふっ

## シグルド&エーディン(前書き)

シグルドはディアドラとAなので、Bまでです。エーディンはシグルドに片思いしてたと思っています！

## シグルド&エーディン

シグルド&エーディンC

「シグルド」

…ディン？エーディン？

「エーディン」

！シグルド様。

「シグルド」

どうしたんだ？ぼんやりしていると危ないぞ？

「エーディン」

すみません、姉の事を考えていました。

「シグルド」

そうか…私は彼女に会った事が無いが、きっと君に似ているんだろ  
うな。

「エーディン」

はい、私達は双子ですから。

「シグルド」

彼女は生きているよ、弓神ウルが見捨てるはずは無い。

「エーディン」

私もそう信じています。でも、ふと不安になるのです。

「シグルド」

エーデインが沈んでいるのを見るのは辛いな。

「エーデイン」

シグルド様……。

「シグルド」

ん？どうしたんだ？

「エーデイン」

いえ…何でもありません。貴方に神のご加護がありますように。

シグルド&エーデインB

「エーデイン」

シグルド様、お怪我をされたと聞いたのですが。

「シグルド」

ああ、心配ない、大丈夫だ。

「エーデイン」

そんな事ではいけません、手当てしますから。…はい、出来ました。

「シグルド」

ありがとう、エーデイン。ん？どうしたんだ？

「エーデイン」

…シグルド様、バトウ王はどのような最期を遂げられたのですか…？

「シグルド」

何故だ？

「エーディン」

私はジャムカ王子に助けていただいたでしょう？

彼は命の恩人、そしてあの方はバトウ王の事をそれは思っ  
ていらしたの。

ですからとても気になりました。

「シングルド」

そうか・・・亡くなる直前にほんの少しだけ話せたんだが、  
分かって頂けたよ。

「エーディン」

そうですね、良かった・・・。

## デイク&レイ(前書き)

ロイドの息子がデイクで、ニノの息子がレイで、義従兄弟とでも言うんでしょかね？そう言うイメージで作りました。

デイク&レイ

デイク&レイC

「デイク」

おい、坊主。

「レイ」

。。。。。

「デイク」

敵は強い。少しでも命が惜しいなら、今のうちに逃げた方がいいぜ

「レイ」

坊主じゃない、レイだ

「デイク」

そうか、悪かったなレイ

「レイ」

あんたは？

「デイク」

俺はデイク。

「レイ」

で、何か用？

「デイク」

さっき言ったのが聞こえなかったか？

「レイ」

聞こえないね。俺は、俺の為に戦うんだ

「ディーク」

そうか・・・なら、せいぜい死なないように気をつけな

ディーク&レイB

「ディーク」

よう、レイ

「レイ」

また、あんたか

「ディーク」

そんな顔をするな、近くにいい機会が多いからな

「レイ」

側にいるのはいいんだけど、あんたのへまに付き合う気はないから。今まではそんな事は無かったけど、

仲間だとか助けてもらえるとか、甘い考えはもたないでくれる？

「ディーク」

はは…お前の親は、一体お前にどんな教育をしたんだ

「レイ」

親なんかいないよ。兄貴のルウと、他数人の子供達と小さい頃から孤児院にいたんだ

「ディーク」

そうか…そりゃ悪い事言っちゃまったな

「レイ」

別に…いい…

「ディーク」

レイ？このバカ、よく見りゃ顔少し赤いじゃねーか、調子悪いんだろっ。

今までそんな状態で戦ってたのか？

「レイ」

バツバカとは何だ！全然平気に決まってるんだろ！

「ディーク」

はいはい、おまえは強いよ。だが、まだまだつめは甘い。俺なんかに悟られるから…

「レイ」

わっ…

「ディーク」

こっぴつ目にあつんだぜ？

「レイ」

おいっ俺は戦えるんだぞ！魔道書取るなよ！

「ディーク」

ほらよ

「レイ」

ったく…

「デイク」

いいか、今みたいに魔道書取り上げられたくなければ、自分から仕掛けるのはなるべく我慢しろ。お前は、俺の後ろで見張ってるだけでいい。

…安心しろ、俺はこう見えても腕はそこそこ立つんだ、多少は休める筈だぜ

「レイ」

…

デイク&レイA

「レイ」

なあ、あんた

「デイク」

?珍しいな、どうした?元気になってよかったな

「レイ」

…これ、やる。味は、悪くない筈だ

「デイク」

へえ、焼き菓子じゃねーか。だが、お前のだろっ?甘い食べ物は貴重だろうに

「レイ」

俺はいらない。じゃあ、俺は行くから

「デイク」

おいおい待てよ、俺も行くから。それより、貰ったからには俺も何か返さなくちゃいけねーな

「レイ」

俺が勝手にあんたにあげたんだ、そんなのいいだろ

「デイク」

！…わかった。やはり、お前はいい奴だな

「レイ」

は？

「デイク」

お前に会う度、俺はお前に嫌われてんじゃねーかって考えてたんだが

「レイ」

そんな事…ない

「デイク」

それが分かったただけで嬉しくてな、これ食べる気無くしちゃまったから、返すぜ。

菓子は嫌いじゃないんだろ？

「レイ」

！…りがと

## ヘクトル&ライナス(前書き)

ロイド曰く、ヘクトルは「弟のライナスに似てる」そうです。だも  
んで、この二人が仲間になったと仮定してみました

## ヘクトル&ライナス

ヘクトル&ライナスC

「ヘクトル」

…

「ライナス」

おい、さっきから人の周りうるちよろして何だお前は

「ヘクトル」

・・・ちっ。

「ライナス」

オステイア侯弟ヘクトルだったな、何か用か？

「ヘクトル」

別に。お前さ、兄貴のロイドと違って背も高いし、体もでっけーよな。

何食ったらそんなにでかくなれるんだ？

「ライナス」

は？…ああ、この体のでかさは親父譲りだ。これでもガキの頃は兄貴より小さかったんだがな

「ヘクトル」

マジか！？

「ライナス」

ああ

「ヘクトル」  
それにしてもお前、図体もいいが腕も相当いいよな。  
見ててよく分かったぜ、悔しいが認めてやる

「ライナス」  
はははっ当たったり前だろうが！お前ら貴族のぼっちゃん達とは鍛え方が違うからな。

「ヘクトル」  
んだとっ！なら、お前はどっやって鍛えてたんだよ？

「ライナス」  
そりゃ兄貴や親父と打ち合ったり、闘技場に通ったりだ。  
…まあ、お前も貴族にしちゃよくやってるぜ、どこで鍛えた？

「ヘクトル」  
俺もほとんど闘技場だな。連日、学問所を抜け出しちゃー戦士どもと腕を競い合ってたからな

「ライナス」  
おいおい、闘技場だと？闘技場に連日通う貴族なんざ初めて聞いたぞ？変わってんな

「ヘクトル」  
うるせー！

ヘクトル&ライナスB

「ヘクトル」  
ライナス！

「ライナス」  
ああ？今度は何だ？

「ヘクトル」  
なあどうだ、この戦い終わったらオスティアに来る気はねえか？

「ライナス」  
あー・・・っと、それは無理だな

「ヘクトル」  
何でだよ？

「ライナス」  
他の連中とも今後どうするか相談しなきゃなんねえしよ

「ヘクトル」  
なら、他の連中も一緒にオスティアへ来りゃいいじゃねーか

「ライナス」  
いいのか？俺らがやってた事は分かってんだろーが

「ヘクトル」  
いいから言っただけじゃねーか

「ライナス」  
あー・・・でも俺は、すぐには無理だぜ。待ってる奴らがいるからな

「ヘクトル」

おっもしかして女か？どこにいんだよ？

「ライナス」

・・・ブルガルだ。それと、チビが一人な

「ヘクトル」

へっ！？お前子供までいんのかよ！

「ライナス」

ああ、いちゃ悪いかよ

「ヘクトル」

子供の名前は？

「ライナス」

ルトガー

「ヘクトル」

ルトガー…もしかして、奥さんはサカ人か？

「ライナス」

まあ似たようなもんだ。俺にも、あいつにもサカの血が入ってるからな。

俺はお袋がサカ人で、あいつは父親がサカ人だから

「ヘクトル」

ふ〜ん。なんか、お前父親ってイメージねーのにな。ルトガーか…お前に似てるのか？

「ライナス」

ああ。髪の色も、目の色も顔つきもな

「ヘクトル」

じゃあ、将来はお前に似て大男になるな、きっと

「ライナス」

さーな

## エリウッド&ロイド(前書き)

ロイドが仲間になったと仮定。本当、ロイドもライナスも仲間にな  
って欲しかったです

## エリウッド&ロイド

エリウッド&ロイドC

「エリウッド」

ロイド、無事か？

「ロイド」

エリウッドか・・・何故、俺に話しかける？

「エリウッド」

え？

「ロイド」

俺達が今までやって来た事は、もう知っているんだろう

「エリウッド」

ああ

「ロイド」

俺は、お前達貴族の敵なんだぜ？話しかけるのは賢明とは言えんがな

「エリウッド」

何故だ？君は・・・いや、君達は本来ならば我々がやるべき事を代わりにやってくれていた。それに今は、我々と共に戦ってくれて本当に助かっている

「ロイド」

・・・妹を助けてくれたからな。

それに、今のところお前達のやっている事は牙の流儀に反しない。

「エリウツド」

ロイド、それなら……。

「ロイド」

だからと言って、気を許し過ぎない事だ。

…お前達は、今の所俺達を取り除いてきた連中とは違つようだが、お前や他の貴族連中、それに取り巻きの騎士共…  
民に害を及ぼすようならば即座に切り捨てる。忘れるな

「エリウツド」

…

エリウツド&ロイドB

「ロイド」

エリウツド…

「エリウツド」

ロイドか、どうしたんだ？

「ロイド」

お前は、この世の中をどう思っている？

「エリウツド」

世の中…？

「ロイド」

元々平民と貴族とは揉め事が絶えない。親父も、俺が生まれる前か

ら貴族連中と揉めていた。  
牙にいるほとんどの奴も、事情は同じだった

「エリウッド」

…

「ロイド」

俺達が皆同じ権利を持っていたら…  
親父も俺もライナスも、他の連中もこんな仕事はしていない

「エリウッド」

ロイド…それは…

「ロイド」

ふつつまらん事を言った、お前に言っても仕方のない事なのにな

「エリウッド」

…。ロイド、もしこの戦いが終わったらどうするんだ？

「ロイド」

さあな、もう商売上がったりだからな。牙の存在がこれ程知れ渡った以上、  
貴族どもは俺達の首を求めて更に叫びだすだろう。まともな生き方は出来んさ

「エリウッド」

！そんな事はさせない！…ロイド、フェレへ来ないか？君の力が欲しい。

…友として。もちろん君の仲間達もだ

「ロイド」

…仲間も受け入れてくれると言っのか…

「エリウツ」

ああ

（ロイド目を閉じる）

「ロイド」

少し…時間をくれ。

「エリウツ」

ああ…

## ノア&ギース(前書き)

烈火のガイツは、ダーツ達と共に海賊やってるのがM Y設定でござ  
います

## ノア&ギース

ノア&ギースC

〔ノア〕

あの、その人っちょっと待って下さい

〔ギース〕

ん？あれ、おまえ、どっかで見た顔だな？

〔ノア〕

やっぱり！あなたはベルガー商会のギースさんじゃないですか？  
俺を覚えてませんかね、父に連れられて数回会っただけですから無理もないですが

〔ギース〕

！もしかしてお前、ドイツ親父んこのノアか？

〔ノア〕

はいっ思い出してもらえたようで嬉しいです。

〔ギース〕

大きくなったな。で、何でここに？格好からすると騎士になったようだが…

〔ノア〕

ええ、父は僕を船乗りにしたかったようですが、俺にはやはり陸の方が合っているようで。  
あなたこそこんなところで何してるんです？

〔ギース〕  
見ての通り、この軍で戦ってるんだ。共に戦うもの同士、宜しく頼むぜ

〔ノア〕  
はい、もちろんです

ノア&ギースB

〔ノア〕  
ところでギースさん、海運業の方は大丈夫なんですか？

〔ギース〕  
それは…あんまり言いたくねえな。オレはもう、海賊までおちぶれちまった

〔ノア〕  
！すみません、何やら事情がおりのようなので

〔ギース〕  
いって事よ。だが、もう海賊はやめだ。戦争が終わったら、また商船乗りにもどるんだ

〔ノア〕  
成る程、それはいいですね

〔ギース〕  
お前はどつなんだ？

〔ノア〕  
とりあえずイリアへ戻ると思いますが、その後はどうするか・・・  
多分、傭兵を続けると思いますが

〔ギース〕  
どうだ、この戦いが終わったら、おまえも久し振りに船、乗ってみるか？

〔ノア〕  
そうですね・・・それもいいかもしれませんが。その気になった時は、お願いします

ノア&ギースA  
〔ギース〕  
うん・・・

〔ノア〕  
ギースさん？どうしました？

〔ギース〕  
いや、急に兄貴の事を思い出したんだよ

〔ノア〕  
ギースさんにお兄さんが？

〔ギース〕  
ああ、歳は離れてるがな。名前はガイツってんだ。  
親父に言わせりゃ出来そこないだったそうだが、俺からすればいい

兄貴だったぜ

〔ノア〕

そうですか…

〔ギース〕

俺が小さい頃に家出して、それからさっぱり音沙汰無しだ。  
今は何やってんだろうな。腕っぷしには自信ある人だったら、  
生きていれば傭兵でもやってるんだろうけどよ。

〔ノア〕

ガイツさん…ですか。案外、ギースさんのように海に出ているかも  
しれませんね

〔ギース〕

ん？何か知ってるのか？

〔ノア〕

父の友人に、確か同じ名前の人がいた気がします。本当に、お兄さ  
んだといいですね…

アレス&ティニー

アレス&ティニーC

「ティニー」

あっ…きゃっ

「アレス」

…何をしている？

「ティニー」

「っ、ごめんなさい…」

「アレス」

…手を貸せ

「ティニー」

は、はい…ありがとうございます。あの…

「アレス」

アレス

「ティニー」

あのっアレス様、私はティニーです。お邪魔をして申し訳ありませんでした

「アレス」

いや、邪魔ではないが、どうして何も無い所でこけたんだ？

「ティニー」

え？あの、その…

〔アレス〕

何故お前のようなトロイ女が戦場にいるかは知らんが、  
足手まといにならないようにしろ。じゃあな

〔ティニー〕

あ…はい…

アレス&ティニーB

〔ティニー〕

あ…あの…

〔アレス〕

ティニーか

〔ティニー〕

はい！あの…この前はありがとうございました

〔アレス〕

あんなもの礼には及ばん。用はそれだけか？

〔ティニー〕

いえ…セリス様に、貴方を援護するよう言われました

〔アレス〕

お前が？中途半端な援護役など必要ない、と俺が言っていたとセリスに言っておけ

〔ティニー〕

！

〔アレス〕

ではな

〔ティニー〕

ま…待って下さい！

〔アレス〕

何だ

〔ティニー〕

困ります…私に与えられた大切なお役目ですから。  
絶対に、貴方の足手まといにならないようにします

〔アレス〕

…分かったから手を離せ

〔ティニー〕

あ、ごめんなさい！

〔アレス〕

ふう。まあ、いいだろう。お前<sup>ご</sup>ときに足を引っ張られるような俺  
ではないからな

〔ティニー〕

はい！

「アレス」

ほう…芯はしっかりしているようだ、気に入った

アレス&ティニーA

「ティニー」

アレス様、大丈夫ですか？

「アレス」

俺の心配はいらん。

俺は父上の遺志を継いで、アグストリアを立派な国にしなければならんからな

「ティニー」

はい、そうですね。私もアルスターに帰って皆のために働きたい

「アレス」

何だ、俺とアグストリアへと来る気はないのか？

「ティニー」

え？

「アレス」

言葉通りだ。お前は根性もあるし、魔法の腕も認めよう。

実際何度か助けられたしな。その調子でずっと俺の側にいて欲しい。どうだ？

「ティニー」

はいっ喜んで！アレス様！

## ランス&シャニー（前書き）

ランスが、フェレ騎士になる前までは、イリア傭兵だと思っています。

## ランス&シャニー

ランス&シャニーC

「シャニー」

あれっお兄さん…ランスさん！ランスさんだよね！？

「ランス」

！君は、シャニー？大きくなったな…そうか、修行中か

「シャニー」

うんっそうだよ！

「ランス」

やはりな。『外で戦えば、イリアでは得られないものが手に入る』  
か……。君は今、どこの騎士団に？

「シャニー」

デイクさんのとこ

「ランス」

ほう、デイク殿の？その様子だと彼らと上手くやっているようだな、良かった

「シャニー」

えへへ、戦いとかでもあたしいっぱい役に立ったもん。

「ランス」

ほう、それは素晴らしい事だ。この軍での活躍も期待してるぞ、シャニー

「シャニー」

うん！あたし頑張るよっ。

ランス&シャニーB

「シャニー」

さあ、今日も元気に頑張るぞー！ねっランスさん！！

「ランス」

ああ。…だがシャニー。ここは戦場だぞ、余り大声を出さないように。

君達天馬騎士の天敵である弓兵がどこにいるか分からんぞ

「シャニー」

はーい、分かったよお

「ランス」

よろしい

「シャニー」

うーん…やっぱりランスさんたら、タイトお姉ちゃんみたい

「ランス」

…俺がイリアにいる頃にも聞いた気がするな…ユーノさんも言っていた

「シャニー」

でしょでしょっ！だからね、ランスさんの側にいると、

お姉ちゃんの側にいるみたいですがごく力が湧いて来るんだよ！

「ランス」

俺も、君が側にいると可愛い妹がいるみたいで元気が出るよ

「シャニー」

へへへ、ありがとう

ランス&シャニーA

「ランス」

なあ、シャニー

「シャニー」

あっランスさん。どうしたの？

「ランス」

俺が出て行ってから、イリアに変わりはないだろうっか

「シャニー」

特にはないよ、相変わらず雪は多いけど

「ランス」

そうか…

「シャニー」

ランスさんは、この戦いが終わったらイリアに帰るの？

「ランス」

それは、どうだろう。俺はもうイリアの傭兵ではなく、フェレの騎士だからな

「シャニー」

そっか、残念だな。でも、ランスさんて全然イリアに帰ってないでしょ？

一度くらいいいんじゃない？

「ランス」

そうか…そうだな…ほんの少しだけなら。

落ち着いてから、ロイ様とマーカス將軍に相談してみよう

「シャニー」

うんっ！それがいいよ！！帰る時は言ってねっあたしが案内するか  
らさー！

「ランス」

ああ、宜しく頼む

「シャニー」

よーし！いっぱい一緒に活躍して、絶対勝とうね！

「ランス」

ああ、その通りだ

スー&リリーナ(前書き)

ラスとリンの娘スーと、リンの親友フロリーナの娘、リリーナの  
会  
い

スー&リリーナ

スー&リリーナC

「リリーナ」

こんにちは、私はオスティアのリリーナです。あなたの名前を教えてください？

「スー」

クトラ族のスー

「リリーナ」

スー：何だか、不思議な響きがするわ。スーは草原の民よね？

「スー」

そう

「リリーナ」

私ね、草原の民とゆっくりお話するのって初めてなの。どうか宜しくね

「スー」

そう…あなたがオスティアの…

「リリーナ」

え？

「スー」

またゆっくり話しましょう。…あなたには強力な守護を感じるわ。決して悪いものは近付かない

(スー消える)

「リリーナ」

あ！スー…不思議な子

スー&リリーナB

「スー」

リリーナ

「リリーナ」

あら、スー。なあに？

「スー」

私の母、リンデイスはキアランと言う土地に昔住んでいたわ。  
オスティアの友人に統治を委ねて母は草原へ帰ったと聞いた

「リリーナ」

！では、あなたがリンデイス様の？

「スー」

ええ…

「リリーナ」

会えて嬉しいわ、私の母フロリーナはあなたのお母様の親友だったの

「スー」

そう聞いている

「リリーナ」  
私ね、あなたのお母様の話をよく聞かされたの。とてもしっかりした方で、  
私の母の方があなたのお母様をお守りしないといけないのに、立場が逆だったんですって

「スー」  
フッフ…私もあなたのお母様の事をよく聞いたわ

「リリーナ」  
あら、どんな話かしら？

「スー」  
すごく頑張り屋でほっとけなくて、それにものすごく男の人が苦手な筈なのに…  
一番取られなかった人にとられてしまったって

「リリーナ」  
まあ、そんな話があったのね。

スー&リリーナA  
「リリーナ」  
スー、平気？

「スー」  
ありがとう

「リリーナ」

ねえ、スーの住んでいた草原の話聞かせてくれる？

「スー」

一面風渡る緑の草原があつて・・・すみきつた青空に流れる小川があり、

天や地には色々なものの声が満ちている・・・それが、私の故郷。

「リリーナ」

素敵ね・・・ねえ、スーはこの戦いが終わったら、やっぱり草原に帰るのかしら？

「スー」

ええ、そのつもり。

「リリーナ」

そう、せっかく仲良くなれたのに残念だわ。

「スー」

……。離れていても、お互いを思う気持ちがあれば繋がっているわ。私も、あなたも。

「リリーナ」

スー・・・ええ、ありがとうっありがとう！

## ランス&テイト（前書き）

ランスはイリア傭兵だった説再び。ユーノにトライアングルアタックを教えたのが、実はランスの母フィオーラであるとしています

## ランス&テイト

テイト&ランスC

〔テイト〕

ランス…？あなたランスでしょう！？

〔ランス〕

？君は…まさかテイト！？久し振りだな、何年ぶりだろう！

〔テイト〕

ええ、本当に驚いたわ。まさか、会えるとは思わなかった

〔ランス〕

ああ、俺もだ

〔テイト〕

あなた達を雇った主人は不幸にも死んだと噂で聞いたの。  
もちろん、あなたの仲間も。だから、あなたが生きているとは思わ  
なかった…

〔ランス〕

それは、すまない

〔テイト〕

！何を言っているの、無事でいてくれて嬉しいわ。  
あなたとは同じ歳で、しばらくの間一緒に修行した間だもの、どう  
か宜しくね

〔ランス〕

ああ、宜しく頼む。共に力を合わせて戦いを勝利に導こう

「テイト」

ええ、もちろんよ

テイト&ランスB

「ランス」

テイト、無事か？

「テイト」

ええ、ありがとうランス

「ランス」

懐かしいな、こうしていると君とイリアで勉強し、修行した日々を  
思い出す

「テイト」

でもランスは変わったわ。あの頃より背も伸びて、ずっと大人の男  
の人っぽくなった。

相変わらず気苦労してそうだけど

「ランス」

外れてはいない。何故分かった？

「テイト」

あら、あなたの事ぐらい分かるわよ。ランスって分かりやすいの

「ランス」

…実は、君の姉さんや妹に、君と私はそっくりだとよく言われたな

〔テイト〕

え？どこがかしら？もうっ姉さんとシャニーったら

〔ランス〕

だが、変わったと言えば君も変わったと思う

〔テイト〕

え？

〔ランス〕

君は美しくなった。最初見た時分からなかったよ

〔テイト〕

ラ、ランス…

テイト&ランスA

〔テイト〕

ランス、無事！？

〔ランス〕

もちろんだ。君も無事だな？そ、そっだ君に話があるんだが…

〔テイト〕

え？ええ、実は私もあなたに話があるの

〔ランス〕

そうか、君の話とは？

「テイト」

わっ私は後でいいわ、あなたからどうぞ

「ランス」

なら、率直に言おう。驚くかもしれないが聞いて欲しい

「テイト」

…いいわ、言っで。

「ランス」

テイト、私と共にいてくれないか？

君が側にいてくれると、不思議といつも以上の力が出せる気がするんだ。

もちろんそれだけじゃない、君がいると言っただけで落ち着く事が出来るし、

君とは話が合うからとても楽しいと感じるんだ

「テイト」

ランス…ええ、私もそう言いたかったの

「ランス」

本当か？

「テイト」

もちろんよ。本当は他にもあるのだけど…

「ランス」

そ、そうか。それともう一つ聞いて欲しい。

戦いの後二人共無事だったら…それからもずっと私の側にいて欲しい

「テイト」

ランス…！

「ランス」

どうだろう？

「テイト」

ええ、嬉しいわ、喜んで

「ランス」

ああ、良かった…ところで君の話とは？

「テイト」

ふふっあなたが全部言ってしまったわ

## セーラ&レイラ\*\*セーラ&ポールス(前書き)

本編だと、セーラが密偵であるレイラを知っているか微妙なんです  
が、ここでは顔見知り設定です。もう一作は、オズセラでポールス  
&ウエンディ兄妹です。兄妹の顔(と髪の色)があまりにも似てな  
いので、ポールスはオズインとの前妻の子かなとも思うのですが…  
やはり実の親子で。ポールスの髪の色は隔世遺伝でしょう。

## セーラ&レイラ\*\*セーラ&ポールス

セーラ&レイラC

「セーラ」

あら？あなたって……。

「レイラ」

セーラ？久し振り

「セーラ」

やっぱり！オスティアの宮廷楽師が  
どうしてそんな格好でこんな所にいるのよ？まさか、あなたも戦っ  
てるの？

「レイラ」

ええ、剣も多少使えるから。この戦いで役立てるようウーゼル様か  
ら言われたのよ。

「セーラ」

そう言えばあなた、ウーゼル様やヘクトル様のお気に入りですもの  
ね。

でも、あなた戦った事なんてあるの？足手まといになりかねないじ  
やない。

ひ弱そうな楽師のあなたを戦わせるなんて、

ウーゼル様やヘクトル様も見る目があるんだか無いんだか。きつと  
無いわね。

「レイラ」

……主君の陰口は感心しませんよ。

「セーラ」  
ふうん。ま、怪我しないようにね。こっちは忙しくてあなただけに構ってられないから、  
怪我しても頼らないでね。

「レイラ」  
ええ、あなたに負担をかけるような事はなるべくしないようにするわ。  
じゃあ、あなたも気をつけてね。

(レイラ消える)

「セーラ」  
何よっ自分に自信があるのか知らないけどいい気になって！

セーラ&レイラB  
「セーラ」  
ねえ、レイラ。

「レイラ」  
あら、セーラじゃない。どっかしたの？

「セーラ」  
ちょっとあなたに言うておきたいんだけど。

「レイラ」  
？何かしら？

「セーラ」

私はね、自分と同じぐらいキレイな子とは仲良くしない主義なの。

「レイラ」

え・・・・・・・・？

「セーラ」

何の事言ってるか分からないって顔ね。でも、そう言う事なの。

私の方が断然魅力的なんだけど、あなたもそれなりだから

私の魅力が目立ちにくくなっちゃうのよね。

「レイラ」

・・・・・・・・。

「セーラ」

だから、同じオスティア出身でちょっと顔見知りだから仲良くする。

・

なぐって言う安易な考えはやめてね。

「レイラ」

まあセーラ、どうしてそんな・・・。

「セーラ」

そりゃ、あなたの演奏の腕だけは別だけど。

と・に・か・く！これからもむやみに近づいたりしないで。

それを覚えておいてちょうだい！

（セーラ消える）

「レイラ」  
ふう・・・元気なこと。

セーラ&ボールスC

「セーラ」

さあ〜て、今日もお祈りね。

ええつと！・・・聖女エリミーヌ様。どうか私をお助けください。

この戦いで誰も死なずにすみますように。

私の杖で、みんなを助けられますように。それから・・・

(ボールス現れる)

「ボールス」

・・・。

「セーラ」

あつあら？ボールス、いたの？

「ボールス」

くすつええ、先ほどから

「セーラ」

やーねーいるならいるって言いなさいよ

「ボールス」

邪魔しては悪いと思ったのですよ。しかし、母上は立派です

「セーラ」

そう？まあ、ほめられて悪い気はしないわね

セーラ&ボールスB

「セーラ」

ボールス、最近調子はどう？

「ボールス」

はい、私も誇りあるオスティア騎士団の一員です。

父上を目標に、日々一歩ずつ進んでいます

「セーラ」

本当、うちの子二人は、性格がオズイン様似なんだから…

「ボールス」

それはそうと、母上は、ヘクトル様の奥方フロリーナ様とも親交があつたのですね

「セーラ」

そうよ！フロリーナったらちゃっかり玉の輿に納まつちゃつてま、それは別にいいんだけどね。あんたこそ頑張りなさいよ

「ボールス」

？何をですか？

「セーラ」

決まってるじゃない！ヘクトル様の姫リリーナ様を落とすのよ！

「ボールス」

は、母上…

(ボールス消える)

「セーラ」

！ちょっとボールス？冗談だっけば、しっかりしてよね

## ランス&リリーナ（前書き）

ロイの部下である、顔見知りのランスに、話しかけるリリーナ

## ランス&リリーナ

リリーナ&ランスC

「リリーナ」

こんにちは、ランス

「ランス」

リリーナ様、お怪我はございませんか？

「リリーナ」

ええ、ありがとうございます

「ランス」

ならばいいのですが、どうかもっと自重して下さいませ。

ここは戦場なのですよ。前線に出られるのを控えられてはいかがですか？

私の後ろに控えていてください

「リリーナ」

ありがとう、ランス。でも私、皆が頑張っているから、私もがんばる。

無理はしないわ。ランスこそ無理はしないでね

「ランス」

はっもつたいないお言葉です

リリーナ&ランスB

「リリーナ」

ランスはどうしてフェレの騎士団に入ったの？

「ランス」

かいつまんで話しますと…以前、私は傭兵をしておりましたが、旅の途中で仲間と主人を失い、流浪していた所をエリウッド様に助けられたのです

「リリーナ」

おじ様に？

「ランス」

はい。そしてエリウッド様は偶然にも、我が父ケントの主君であった公女リンデイス様をお救いして下さいた方でもあります

「リリーナ」

リンデイス？キアランの？

「ランス」

はい。エリウッド様は我が父、そして私の二代にわたる恩人ですから。

私もかつての父のように、ロイ様をお守りしたいと思っております

リリーナ&ランスA

「ランス」

リリーナ様、どうか私のお側に

「リリーナ」

ありがとう。ランスはいつの間にか側にいて、私の事を守ってくれるのね。

この戦いの間だけじゃない、よく考えてみればずっと前からそうだったわ

「ランス」

それは…

「リリーナ」

どうしてかしらって思っていたの。でも、この前の話を聞いて気付いたわ。

あなたのお父様がケント様と言う事は、お母様の名前はフィオーラ様では？

「ランス」

…はい

「リリーナ」

やっぱり！どうして黙っていたの？私のお母様のお姉様でしょう？  
と言う事は、私達従兄妹よ、これからは…

「ランス」

気付いていないわけではありませんでした。母からあなたの事は聞かされていましたから。

でも、両親からきつく言われています。

幾ら身内とは言え、立場をわきまえないと相手が困るのだと。ですから、無理に名乗る必要は無いと思いました

「リリーナ」

そう…

「ランス」

あなたは私にとっても、そしてこれからのリキアにとっても大切な方です。

必ず、必ずお守りします

「リリーナ」

ランス…ありがとう…

## オズイン&レイラ（前書き）

ウーゼルの腹心オズインなら、レイラ existence を当然知っていたと思います。

## オズイン&レイラ

オズイン&レイラC

「レイラ」

オズイン様、ご無事ですか？

「オズイン」

おお、レイラ。お前の働きぶりは目を見張るものだと聞いている。同じオスティアの者として私は鼻が高い。

「レイラ」

はっ有難いお言葉です。

・・・この度はウーゼル様よりヘクトル様護衛の任を受けましたので、

これからも引き続き任務に当たりたいと思います。

「オズイン」

うむ、期待しているぞ。

「レイラ」

はい、必ずお守りいたします。

オズイン&レイラB

「オズイン」

レイラ、ヘクトル様の様子はどうだ？

「レイラ」

はい、最初の頃に比べますと心身共に急激に成長されております。多少、何でも一人で片付けようと無茶をされる所があるのは否めませんが。

「オズイン」

そうか……。ところで、お前の目を盗んでどこかへ行く、というような事は無いか？

「レイラ」

いえ、特にありません。それに私のような者にも気を遣って下さいます。

「オズイン」

ふむ……。やはり、お前をヘクトル様の護衛につけた事は間違いでは無かったようだな。

「レイラ」

……。？と、申されますと？そう言えば、今回のヘクトル様護衛の任はオズイン様が私にも任命するようウーゼル様に進言されたと聞きました。

「オズイン」

ああ、どうやらヘクトル様はお前を気に入っているようだ、と言う話になってな。

お前の前でヘクトル様も悪さは出来んだろう、とウーゼル様とも話し合っていたのだ。

「レイラ」

はあ、そうでしょうか。でも、一体誰がそのような事を？

「オズイン」  
マシューだ。

「レイラ」  
そ、そうでしたか。

「オズイン」  
だがヘクトル様とお前ならば本当にお似合いだぞ？お前ならば私も安心だしな。

「レイラ」  
オ、オズイン様！？では失礼致します！

(レイラ消える)

「オズイン」  
む・・・やはり話が急過ぎたか・・・。

## カアラ&フィル(前書き)

カアラとフィルの、ちょっと切ない親子支援です。そして、フィルはこの後偶然、母の友人ファリナの息子、ノアと出会うのです！

## カアラ&フィル

カアラ&フィルC

「カアラ」

フィル、少しいいか？

「フィル」

はい、母上。何でしょう？

「カアラ」

お前は、何故剣を学びたいと思うのだ。

「フィル」

はい、修行をされている父上や母上を見て、  
剣を学ぶ事こそが私の生きる道だと思うからです。

「カアラ」

そうか…私は、剣など嫌いだった。

「フィル」

母上…？

「カアラ」

他を斬り捨てるためだけの剣を学びたくなどなかった…。お前にも  
以前少し話したと思うが

「フィル」

ええ、聞きました。一族の教え故、当時はそうでなくてはならな  
ったのでしょうか？

でも、今は違います。母上の剣技、とても綺麗ですよ

〔カアラ〕

フツ…どうした、そのような世辞はいらんぞ

〔フィル〕

いいえ！…私も、早く母上のような立派な剣士になりたいです

カアラ&フィルB

〔カアラ〕

ファリナ…何故だろうな、よくそなたの事を思い出す

〔フィル〕

母上？

〔カアラ〕

どうした、フィル

〔フィル〕

最近、母上は何やら考え込む事が多いご様子…どうされました？

〔カアラ〕

何かの拍子に、昔の事を思い出すのだ

〔フィル〕

一体、どのような事でしょう？

〔カアラ〕

一族の事、そして兄者の事、お前の父バートルと出会った事…  
友と呼べるヴァイダ、ファリナに出会った事などだ

「フィル」

父上から、母上に出会った経緯を聞きました。少し、懂れてしまいません。

ところで、ファリナ様とはご友人の名前だったのですね

「カアラ」

そうだ、懐かしいな…ファリナはイリアの天馬騎士で、  
いつか共に旅をしようと言ったのだが、  
私の事情で結局、その約束を果たす事は出来なかった

「フィル」

そうだったのですか…行方をご存知ではないのですね？

「カアラ」

ああ…だが、しっかり者のあやつのだ、私のようにいふや子と  
共に、  
心安らかに暮らしているよう願っている。

…死ぬ前は過去が走馬灯のように過ぎると言うが、これがそうなの  
かもしれんな

「フィル」

縁起でも無い事を言わないで下さい！そんな…嫌です…

「カアラ」

私は、余命いくばくも無いだろう

「フィル」

！何をおっしやるのですかっ！

〔カアラ〕

自分の寿命は、自覚している。…覚悟はしておけ

〔フィール〕

…母上…すみません、失礼します

（フィール消える）

〔カアラ〕

叶うならば、ずっとお前やバトルの側にいたい…ああ兄者…これが、未練だな

## ファリナ&ノア（前書き）

ファリナとノアの、ほのぼの親子支援。ファリナが拳げてる名前は、  
烈火の支援会話相手です。そして、この会話から、あの封印のノア  
フィルへたどり着くのです！

## ファリナ&ノア

ファリナ&ノアC

「ファリナ」

ノア、ちょっといい？

「ノア」

どうしたの？母さん。

「ファリナ」

船はどう？慣れた？

「ノア」

うん、そうだね。船酔いは全然しないけど。

でも僕は陸の方が好きだな。母さんこそ、船は慣れたの？

「ファリナ」

？どう言う事？

「ノア」

マーフイに乗ってばかりで、母さんまともに船乗ってなかったんでしょ？

船の周りを飛んで見張ってたって言ってたから。

「ファリナ」

ああ、そうね。ダーツったら・・・

ううんっダーツに限らず船乗りって船に女を乗せるのは縁起悪いって何度も言うんだもの。船乗りったら本当に迷信深いのよね。

でも、ばっちり慣れたわよ。後は働きながらお宝を見つけるだけね！

〔ノア〕

うん、父さんの夢も叶うといいよね。

〔フェアリナ〕

駄目よ！まったくグッツだったら…。

いい？ノア、例え夫婦、親子と言えどもお金に関しての妥協は駄目。グッツより先にお宝見つけたら、すかさず私達が頂くのよ！

〔ノア〕

か、母さん…ふう、父さんも大変だな

フェアリナ&ノアB

〔ノア〕

母さん

〔フェアリナ〕

どうしたのよ？

〔ノア〕

母さんが一番思い出に残っているのは、やっぱり20年以上前の戦い？

〔フェアリナ〕

そうよ、懐かしいわね…色々な人と会えたから。

あんたの父さんに、姉さんの旦那さんのケントさんや

フロリーナの旦那のヘクトル様、奥さん思いのドルカスさん、それにかアラ…

「ノア」  
カアラ？

「フアリナ」  
そうよ。美人で、すごく強いサカの剣士で、私達すっかり意気投合しちゃったの

「ノア」  
そうなんだっ今でも仲いいの？

「フアリナ」  
それがね、彼女も各地を渡り歩く身だったから  
戦いが終わった後に一緒に傭兵をやらなかつた誘ったんだけど、  
彼女は元々昔の男を探してたの。  
戦いが終わった後もやっぱり探すって言って別れて…それっきり会  
ってないわ

「ノア」  
そうか…

「フアリナ」  
ノア、あんたにはまだ早い話かもしれないけど、  
この人だ！と思ったら何が何でも逃がしちゃ駄目。そうじゃないと  
絶対後悔するからね

「ノア」  
うん、母さんみたいにしっかり捕まえておけばいいんだね

「フアリナ」

とっ突然何言い出すのよ！

「ノア」

くすっはいはい、失礼しました

## ライナス&ルトガー（前書き）

最近、親子支援会話創作にハマっています。

## ライナス&ルトガー

ライナス&ルトガーC

「ルトガー」

父さん！

「ライナス」

ルトガー、元気そうだな。

「ルトガー」

うん、お父さんも！ねえ、ロイド叔父さんやブレンダンお祖父さんは元気？

「ライナス」

ああ、兄貴や親父ならもちろん元気だぜ。

「ルトガー」

ねえ父さん、聞きたい事があるんだけど、父さんのお母さんはどんな人だった？

「ライナス」

ルトガー・・・そうか、お前には話してなかったな。

父さんの母さんはサカ人だ。美人だったぜ。・・・だが、随分前からいない・・・。

「ルトガー」

死んだの？

「ライナス」

・・・ああ。

「ルトガー」

そうだったんだ・・・ごめんなさい。

「ライナス」

いや、謝る事じゃない。

「ルトガー」

あのね、お母さんが言ってたけど、神様がお母さんを取っちゃうのは、

その人が特別だからなんだってさ。

「ライナス」

ルトガー・・・。

ライナス&ルトガーB

「ルトガー」

ねえ、父さん。えっと・・・やっぱり何でもない。

「ライナス」

何だ、何でも話していいんだぜ。

「ルトガー」

本当？あのね、父さんにも、怖いものはあるのになって思って。

「ライナス」

ああ、もちろん。お前達や兄貴や親父を失うかもしれないと思うと

…怖い。

「ルトガー」

そっか、父さんにも、怖いものがあるんだね。

「ライナス」

ああ、怖いよ。ものすごくな。

「ルトガー」

父さん、お願い。いつも一緒にいようよ。ね？そっしよじっ。

「ライナス」

おいおい、どうしたんだ？…そうか、淋しいのか…当然だな、悪いな。

「ルトガー」

ごめんなさい、父さんが忙しいのは分かってるんだ。

「ライナス」

ルトガー……すまない。気をつける。

「ルトガー」

うっん！母さんがね、風や大地の色々な声を聞きなさいって言うんだ。

そうしたら淋しくないからって。僕、頑張るよ。

「ライナス」

ああ、それに、そうすればあらゆるものと心を通じる事が出来る。乗り越えないとな。

「ルトガー」  
うん！

## ウハイ&ラス（前書き）

ウハイが仲間になっていたら、恐らくサカ草原へ帰ったと思うので  
す

ウハイ&ラス

ウハイ&ラスC

〔ラス〕

お前は…草原の民か。

〔ウハイ〕

ああ、俺はウハイ。お前は？

〔ラス〕

…クトラ族の、ラス

〔ウハイ〕

！そうか…お前が、クトラのラス…

〔ラス〕

…？

〔ウハイ〕

長い…旅をしているようだな

〔ラス〕

…一人で旅を続けて…もう十五年あまりになる

ウハイ&ラスB

〔ラス〕

…ウハイ

〔ウハイ〕

ラスか…何だ？

〔ラス〕

クトラに…何かあるのか？クトラと聞いた時…お前の表情がほんの少しだけ緩んだ

〔ウハイ〕

…妻がクトラ族で、少しだが話に聞いていた

〔ラス〕

そうか…

〔ウハイ〕

重大な使命を受けて草原を離れた、族長の息子がいたともな。

…妻はその息子の世話役だった。

〔ラス〕

……

〔ウハイ〕

身を、案じていた

〔ラス〕

…お前の妻は、息災か

〔ウハイ〕

ああ…

(ラス、目を閉じる)

〔ラス〕

そうか…ならばいい

ウハイ&ラスA

(ウハイ、目を閉じている。)

〔ウハイ〕

…

(ラス現れる)

〔ラス〕

…どうした

(ウハイ、目を開ける)

〔ウハイ〕

!…ラスか

〔ラス〕

浮かぬ顔をしている

〔ウハイ〕

…妻の事を考えていた…だが、俺にもし何かあれば、妻にはクトラ  
へ帰るよう言っている

〔ラス〕

そうか…

〔ウハイ〕

お前に、一つ頼みたい事があるんだが

〔ラス〕

…何だ

〔ウハイ〕

お前は、旅をしていると言っていたな

〔ラス〕

そうだ

〔ウハイ〕

もし、クトラへ戻る時があるなら…

その時に彼女がいて、何か不自由な思いをしているようだったら…

ほんの少しでいい、配慮してやって欲しい

〔ラス〕

…承知した

〔ウハイ〕

頼む…

〔ラス〕

一つ言っておく。お前に何か無くても、気が向いたなら妻と共にク

トラへ来い。

…皆、喜んで迎え入れるだろう。

…  
「ウハイ」  
あぁ  
…

## एसリン&ディアドラ(前書き)

義姉妹支援会話です。何事もなかったら、普通にアルテナとセリスとリーフで遊べていたんだらうな。

## エスリン&ディアドラ

エスリン&ディアドラC（第2章）

「エスリン」

ディアドラ様、お怪我はありませんか？兄上は、お姉さまの事を、とても心配していました

「ディアドラ」

エスリン様・・・有難う、私なら大丈夫です。

私はシグルド様と一緒にいられることが嬉しいのです

「エスリン」

貴女のような、優しい人に愛されて兄上は幸せですね

「ディアドラ」

エスリン様、あなたに差し上げたいものがあります。どうぞこれをお持ち下さい

「エスリン」

えっ・・・あつ、これは光の剣！？…こんな大事なものを私にくださるのですか？

「ディアドラ」

はい、少しはお役にたつと思います

「エスリン」

ありがとう、ディアドラ様！私の宝物にいたします！

エスリン&ディアドラB

〔ディアドラ〕

エスリンさん、相談があるのですが

〔エスリン〕

お姉様、どうされました？

〔ディアドラ〕

セリスの事なのですが、どうしたらいいかわからない事がたくさんあつて…

〔エスリン〕

分かりました、私が教えて差し上げますね

〔ディアドラ〕

ありがとうございます

〔エスリン〕

セリスの、髪の色は兄上譲りですが、顔つきはお姉さまにそっくりですね。どんな子に育つか楽しみだわ

〔ディアドラ〕

エスリンさんにも確か…

〔エスリン〕

はい、娘のアルテナがいます。それとお腹に一人。いつか、セリスと一緒に遊ばせたいわ。いえ、是非遊ばせましょうね、お姉様

「ディアドラ」  
くすくす、すくすく、  
ね

## レックス&ブリギッド(前書き)

レクブリ最高ですwwwwwwブリギッドを(エーディン通してではなく)普通に愛してくれそなのは、彼しかいません!!

## レックス&ブリギッド

レックス&ブリギッドC

「レックス」

！お前は・・・？

「ブリギッド」

何だ、何か用？

「レックス」

まさかとは思うが、ブリギッドなのか？

「ブリギッド」

ブリギッドは私だ。お前は？

「レックス」

レックス

「ブリギッド」

レックス・・・？

「レックス」

そうか、やはり生きていたんだな。はははっ

「ブリギッド」

？変なヤツだな、何が可笑しい？

「レックス」

もう二度と、いなくなったりするんじゃないぜ。またな、ブリギッド

「ブリギッド」

あっおい待て！・・・あの男・・・前に・・・

レックス&ブリギッドB

「ブリギッド」

レックス、待って

「レックス」

何だブリギッド。お前が攫われる前の話なら、知ってる事は全部話したぞ

「ブリギッド」

ふうん。怪我をして動けない私をおぶってくれた事や、熱を出した時にずっと手を握ってくれていた事は聞いてないけどな。あの時、私はとても嬉しかった

「レックス」

ちっ余計な事まで思い出しやがって…

「ブリギッド」

レックスは、普段はすぐ逃げるけど、いざと言う時は必ず側にいてくれた

「レックス」

どうだかな。俺は、お前が一番危ない時に側にいらなかった。…昔の話はもういいだろう

「ブリギッド」

そう、もついいの。私はこうして戻って来たから、それでいいじゃない。

貴方が今、こうして守ってくれている限り離れないから、探す必要は無いよ

「レックス」

ブリギッド…

レックス&ブリギッドA

「ブリギッド」

レックス、あと少しで私が生まれた国に帰れるんだね

「レックス」

ああ。だが、その前に戦いがあるだろう。どうしても戦うのか？

「ブリギッド」

ええ、あなたから離れたくないの。二度も離れるのは嫌だから…

「レックス」

今回は違う。必ず迎えに行くから、ファバル達と待っていてくれな  
いか？

「ブリギッド」

不安なのね？

「レックス」

大いに不安だよ。大事なものを失うんじゃないかとな。君と、子ども

も達だ

「ブリギッド」

あら、私は一度死んだと思われて生きていたのよ？弓神ウルに誓うわ。私は死なない…

## シヴァ&サファイ(前書き)

トラキアで最愛と言っていいほど好きなカップリング。名前に、インドのシヴァ神と、その妻サテイ(サファイ)をかけたんだと思います

## シヴァ&サファイ

シヴァ&サファイC

「サファイ」

あ、シヴァさん…お怪我はありませんか？

「シヴァ」

いや。…シスター、俺が怖いなら、無理に話かける必要はない。  
傷の手当てぐらい、自分で出来る

「サファイ」

！

「シヴァ」

お前は時々、俺に対して怯えているように見える。  
俺の手は血で汚れているから、無理もないがな

「サファイ」

違います、そんな事を思った事はありません。私には分かります、  
貴方はお優しい方です！

「シヴァ」

・・・

「サファイ」

す、すみません…私、何をムキに…

「シヴァ」

いや…

シヴァ&サファイB

「シヴァ」

無事か

「サファイ」

はい、いつもお気遣いありがとうございます…シヴァさん、一つ聞いていますか？

「シヴァ」

何だ

「サファイ」

どうしたら貴方は明るく笑ってくださいるの？

「シヴァ」

！

「サファイ」

上手く言えないのですが、貴方の笑った顔を見たいのです。いつも、笑った所を見た事が無いですから

「シヴァ」

？…俺を見ていたのか？

「サファイ」

はっはい

「シヴァ」

まあいい、油断だけはするなよ

シヴァ&サファイA

「サファイ」

この戦いが終わったら、貴方はどうされるのでしょうか？

「シヴァ」

さあな。シスターはどうなんだ

「サファイ」

私はターラへ戻ります。戻って人々を助けたいのです

「シヴァ」

そうか、お前らしい

「サファイ」

シヴァさん…お願いがあります。もし宜しければ、私と一緒にターラへ来て頂けませんか？

貴方の力を貸して欲しいのです

「シヴァ」

…そうすれば、お前は笑えるようになると思うか

「サファイ」

！

「シヴァ」

どうだ？

「サファイ」

はい。それだけでなく、これからもずっと…  
私を理解し、支えてくれるのは貴方です。お願い  
できませんか

「シヴァ」

…いいだろう。俺は、お前に出会って救われた。俺の力が必要なら、  
幾らでも貸そう

「サファイ」

シヴァ…これからは、私をサファイと呼んで下さい。貴方に出会えた  
事を神に感謝します

## フィン&デルムッド(前書き)

トラキア776ではなく、あくまで聖戦の親子会話です。レヴィンとセティのような感じですよ

## フィン&デルムツド

フィン&デルムツドC

「フィン」

君が…デルムツド？

「デルムツド」

はい、そうですが貴方は？

「フィン」

ああ、やっと会えた。私はフィン。

大きくなったな…どうしているか、お前の事を思わない日は無かった

「デルムツド」

フィン！？父上なのですか！？

「フィン」

そうだ。だが私は、お前には父親らしい事は何一つ出来なかった。

淋しい思いもしただろう、すまない

「デルムツド」

いいえ父上、確かに寂しい時はありました。

ですが、私はこうして父上とお会い出来ただけで十分幸せです

「フィン」

そうか、彼らに感謝しなければならぬな。ところでラケシスは、イザークへ着いたのか？

「デルムツド」

いいえ、母上にお会いした事はありませんが

「フィン」

そうか…ラケシス…

フィン&デルムツドB

「フィン」

デルムツド、大丈夫か？

「デルムツド」

はい、父上。それより母上の事は…私の方こそ申し訳ありません。  
母上は私の為に…

「フィン」

いや、これは私達夫婦の問題だ、何も気にする必要は無い

「デルムツド」

ですが…

「フィン」

フツ…ナンナと違ってお前は冷静で穏やかだ、私に似たのかな

「デルムツド」

父上、抑えているだけですよ

「フィン」

やれやれ、お前までラケシスの気の強さを受け継いだか

「デルムツド」

父上…戦いが終わったら、私は母上を探しに行きたい

「フィン」

！

「デルムツド」

レヴィン様も生きていと仰った。私もそう信じています。だから父上も一緒に…

「フィン」

デルムツド、ラケシスは私が見つける。だから心配するな、それは、私がやるべき事だ

フィン&デルムツドA

「デルムツド」

父上は戦いが終わったらレンスターへ帰られるのでしょうか？

「フィン」

そうだな、私は主君であるキュアン様よりリーフ様をお守りするよ  
う命じられた。

主君の命に従うのは、騎士として当然の義務だ

「デルムツド」

そうですね…私は父上を誇りに思います。

「フィン」

デルムツド、私は確かにレンスターの騎士だが、私とお前はそれ以

前に親子だ。

離れ離れでいた空白は未だに埋めきれしていないしな。

お前もレンスターへ来て私と共に働くだろう？私もお前がいてくれれば心強い

〔デルムツド〕

父上、お気持ちはありがたいのですが、

私は母上が愛したアグストリアの再建の手伝いをするつもりです

〔フィン〕

そうか…やはり血は争えない。お前の中には黒騎士へズルの血が流れている。

残念だが、それが一番なのかもしれないな…

〔デルムツド〕

では、私達の助けでどちらの国をどれだけ豊かにする事が出来るか競争する、

と言っのはいかがです？

〔フィン〕

フツツいい考えだ、悪いが負けはしないぞ

〔デルムツド〕

望む所です！ちゃんと逐一報告しますからね

## セティ&ミーシャ（前書き）

セティミー支援会話です！私がセティの相手で思いつくのは、ティニー、リン、ユリア、カリン、マチュアがありますが、実はセティの相手で一番じっくり来るのはミーシャだと思っております。

## セティ&ミーシャ

セティ&ミーシャC

「ミーシャ」

ああ、王子…セティ様！

「セティ」

ミーシャ！君がこの軍に加わっていたとは

「ミーシャ」

王子失踪の報を聞いて、心配しておりました

「セティ」

私の事は心配要らない。それよりシレジアはどんな様子だ？

「ミーシャ」

王子の命令通り、帝国の傭兵として子ども達を養う為に働いておりましたが、

もはや、私だけでは手に余ります。部下を失い、一度は死を考えましたが、

カリンとリーフ王子の話で思い留まり、こうして生き恥を晒しております

「セティ」

そうか…君と君の部下達には一番辛い役目を負わせてしまった。

子ども達の為とは言え、帝国の下で働くのは辛かっただろう

「ミーシャ」

いえ、王子からこの任務を依頼された時、私はとても誇らしく思い

ました。

それよりも王子、シレジアへ一刻も早くお戻りください

「セテイ」

分かっている。ミーシャ、もう少し辛抱してくれ。

レイドリックを追い出せたら、私はシレジアに帰るから

「ミーシャ」

はい。では、私はこれより王子を全力でお守り致します！

セテイ&ミーシャ B

「ミーシャ」

王子？ご気分が優れないようですが？

「セテイ」

すまない、考え事をしていた。母上と、フィーの事を…

「ミーシャ」

王子の優しいお心を、王妃様はよく分かってらっしゃったと思います。  
す。

それにフィー様はお強い方です、ご無事でいらっしやいます

「セテイ」

ありがとう。そう言えば、君の母上は…

「ミーシャ」

はい、シグルド公子に打たれました

「セテイ」

ミーシャ、知っていると思うがその中に私の両親がいた。  
私とフィーをさぞ恨んでいるだろう

「ミーシャ」

違います！母は間違っておりまして、ラーナ様に剣を向けるなど…  
私は、私の意志で貴方とフィー様にお仕えするのです。母は関係ありません

「セテイ」

君は誰よりも忠実に仕えてくれている。感謝しているよ

「ミーシャ」

王子、私は両親の罪を償わねばなりません。  
こうしてお仕えさせて下さる事、本当に感謝しています

セテイ&ミーシャA

「セテイ」

ミーシャ、無事か

「ミーシャ」

はい！しかし王子、私の事など気になさらず

「セテイ」

そう言うわけにはいかない、君はシレジアにとって必要な人間だから。そして、私にも

「ミーシャ」

王子…一つ申し上げるならば、母は愛する方…父を守り、父の命で戦っていたそうです。

そこだけは、私もそうありたいのです

「セティ」

ミーシャ…

「ミーシャ」

どうかご命令を、王子。必ず果たして見せます

「セティ」

ならば一つ、命令しよう。決して私の側を離れない事、守れるな？

「ミーシャ」

お、王子…はい、決してお側を離れません

## レスター&パティ\*\*ディアドラ&エーディン(前書き)

レスター&パティは支援会話Cのみ、創作支援会話です。ディアドラ&エーディンの会話は、静かな会話ですが、エーディンの、シグルドの妻ディアドラに対する、微妙な気持ちを読み取って頂ければと思います。

## レスター&パティ\*\*ディアドラ&エーディン

レスター&パティC

「レスター」

よお、あんた名前は？

「パティ」

ふんっ・・・。

「レスター」

無口なんだな。もしか男は苦手とか？

「パティ」

違うわ、自分の名前も名乗らずにいきなり女性の名前聞くなんて失礼よ！

だからそんな男とは話さないの。他を当たってちょうだい。

「レスター」

あ！そうか俺の名前言ってなかったな、俺はレスター。

「パティ」

じゃあ教えてあげる、私はユングヴィのブリギッドの娘、パティよ。どう？驚いたでしょう、分かったら気安く話しかけないで。

「レスター」

へえ、ブリギッド伯母上の？母上からよく聞いたぜ、まさか従兄妹に会えるとはね。

「パティ」

！伯母上？じゃあレヴィンさんが言ったたエーディン叔母様の子ども達……

レスターとラナって聞いたけど、レスターはあなた？

「レスター」

ああ。俺の母上の名前はエーディン。ブリギッド伯母上の、双子の妹のな。

ま、これから近くで戦うからそう言う訳で宜しく頼むぜ、パティ。

「パティ」

嘘よっ同姓同名の別人じゃないの！？うわっこんなヤツと血の繋がりがあんなんで…最悪…

レスター & パティ B (第十章)

「レスター」

よお、パティ、あいかわらず元気だな。

「パティ」

あら、レスター大きなお世話だわ。

「レスター」

ほら、また突っかかる。おまえの悪いくせだぜ。

「パティ」

そういうレスターこそあたしをからかってばかりじゃない。

「レスター」

あれ、そうだったけ？

「パティ」

そうよ、レスターはあたしを女だとは思ってないんですよ。

「レスター」

あれ？パティって女だったのか？

「パティ」

！・・・バカ！！

「レスター」

ごめんごめん、ジョークだよ。ほら、怒るなって・・・  
俺、お前のこと、気になるからさ、それでついな・・・すまん

「パティ」

気になるってどういうことよ！

「レスター」

鈍いやツだな！好きなんだよっ、おまえの事が！！

レスター & パティ A (最終章)

「パティ」

レスター、はい！

「レスター」

おっ、パティ、待っていたんだ。もう腹が入って目がまわりそうだ  
ぜ。

「パーティ」

そうだと思って今日は大盛りにしたのよ、ねっ、おいしい？

「レスター」

うまい！ パティの弁当は最高だな。

「パーティ」

ふふっ、もちろんよ！

ディアドラ&エーディンC

「エーディン」

ディアドラ、あなたも戦っているのね

「ディアドラ」

エーディンさん。はい、私も魔法が使えますから…

少しでもシグルド様のお役に立てればと思ひまして

「エーディン」

ふふっ分かりました。でも無理は禁物よ、シグルド様は貴女の事をとても心配されていたの。

何か困った事があつたら私に言ってね

「ディアドラ」

はい、ありがとうございます

ディアドラ&エーディンB

〔エーディン〕

こんにちは、ディアドラ。怪我はない？

〔ディアドラ〕

はい、私なら大丈夫です。

…エーディンさんは、シグルド様が教えて下さった通りの方ですね

〔エーディン〕

まあ、シグルド様が何か仰っていたの？

〔ディアドラ〕

はい。とてもお優しい、自慢の幼馴染なのだと言って頂きました

〔エーディン〕

そう…

〔ディアドラ〕

あの、もし宜しければシグルド様の事、聞かせて頂けませんか？

〔エーディン〕

ええ、構わないわ。シグルド様と最初に出会ったのはね…

## ロイド&ライナス（前書き）

封印で、デイークとルトガーに会話あった理由を考えながら創作。実は二人は従兄弟だったって感じですよ。お互いが従兄弟だって知らない理由は、父親のせいでした（笑）

## ロイド&ライナス

ライナス&ロイドC

「ロイド」

ライナス。

「ライナス」

どうしたんだ兄貴、小言は勘弁してくれよ。

「ロイド」

くくっ…さっきから見ていたが、中々いい戦いぶりだったぞ

「ライナス」

お！珍しくわかってんじゃねーか！

「ロイド」

だが、もっと周りを見る。わざわざ連中を刺激する必要は無いだろう

「ライナス」

悪いな兄貴、俺はこそこそやるのに向いてねーんだ。

兄貴にはいつも後始末押し付けて悪いとは思ってるけどよ

「ロイド」

ふう…お前がそう言う性格なのは分かりきってるが、一応言っただけだ。まあ、任せろ。

「ライナス」

へへっ兄貴ならそう言うってくれると思ったぜ。だから安心して戦えるんだけどな

「ロイド」

おいおい、だからと言って、あまり調子に乗るな。…一応言っておくが、気をつけるよ。

「ライナス」

分かってるって

ライナス&ロイドB

「ライナス」

なあ、兄貴

「ロイド」

ん？

「ライナス」

こんな時になんだけども、親父の再婚の話…どう思うっ？

「ロイド」

お前はどっと思うんだ

「ライナス」

あのソーニャって女、親父には悪いがどうも気に入くわねえ。顔がいいのは認めるけどよ

「ロイド」

…確かに美人だ、恐いくらいな。二ノに対してはどうなんだ

「ライナス」

ああ、あの子はいい子だ。俺は妹が欲しかったから正直言って嬉し  
いけどな。兄貴は？

「ロイド」

俺も、お前と同じさ。もしお袋が生きていたら、  
お前の次には妹が出来ていたかもしれない…そんな事を考えた時  
もあるからな

ライナス&ロイドA

「ライナス」

兄貴、デイクは元気か？

「ロイド」

ああ、相変わらずさ

「ライナス」

あいつは根性もあるし、気立てもいい。兄貴に似て大物になるぜ

「ロイド」

どうだかな。お前こそルトガーはどうだ、顔はお前に似てるが、  
性格は大違いだ。素直な優しい、いい子だった

「ライナス」

なあ兄貴、あいつらにまだお互いの存在を教えないのか？  
いい遊び相手が出来て喜ぶと思うんだが

「ロイド」

ライナス、息子達の事は牙の、ごく僅かな連中以外にも黙っている  
と約束しただろう

「ライナス」  
でもよ…

「ロイド」  
その為にも、俺たちが頑張らないとな

「ライナス」  
ああ！

ルウ&ウォルト(前書き)

焼き菓子ネタです。

## ルウ&ウォルト

ルウ&ウォルトC

「ウォルト」

こんにちは！君がルウ？

「ルウ」

うん、そうだよ。お兄さんは？

「ウォルト」

僕はウォルト。出身はリキアのカフェだよ

「ルウ」

僕もカフェで生まれたんだよ！一緒だねっ

「ウォルト」

うん。ところで、君は魔法が使えるんだね、すごいな

「ルウ」

僕ね、4つの時に両親が亡くなってずっとリキアの孤児院にいて、  
その院長先生が教えてくれたんだよ。もう、その孤児院も壊され  
ちゃったけど…

「ウォルト」

あっごめんよ、辛い事思い出させて

「ルウ」

全然！だって、僕が勝手に話したんだもの。

「ウォルト」

ルウ…同じ出身の者同士、仲良くしてくれろと嬉しいな

「ルウ」

うん！

ルウ&ウォルトB

「ウォルト」

ルウ！

「ルウ」

あ、ウォルトさん

「ウォルト」

君さ、焼き菓子とか好きかい？よかったらこれ、どうぞ

「ルウ」

えっいいの？…おいしー！すっごく、おいしーよ！これは、ウォルトさんが作ったの？

「ウォルト」

うん、そうだよ

「ルウ」

わあっ料理出来るんだ、すごいな

「ウォルト」

あはは、そんなに本格的なものじゃないよ

「ルウ」

自分で覚えたの？

「ウォルト」

まさか！僕の両親が元々料理が得意なんだ。

特に父さんは騎士でもあるんだけど料理も得意でさ、色々教えてくれたんだよ

「ルウ」

わくっいいな。焼き菓子はね、僕とレイが小さい頃、お母さんがよく作ってくれたんだ

「ウォルト」

そうだったのか。もしよかったら、君も今度一緒に作ってみないか？

「ルウ」

いいの！？ありがとう、ウォルトさん。

ルウ&ウォルトA

「ルウ」

ウォルトさん！

「ウォルト」

やあ、調子はどうだい？ルウ

「ルウ」

うん、大丈夫だよ、ありがとう

「ウォルト」  
あのさ、ちょっと聞くけど、ルウはこの戦いが終わったらどうするんだ？

「ルウ」  
チャド達と何とか孤児院を元通りにして、一緒に暮らしてた子供たちを呼び戻してまた一緒に暮らしたいんだ。もし駄目だったら…他の場所を見つけるしかないけど

「ウォルト」  
じゃあ、その孤児院が元に戻ったら、ずっとリキアにいられるよね？

「ルウ」  
うん。だから、少しでもこの戦いで役に立って、願いを聞いてもらうんだ

「ウォルト」  
ルウ、僕も子供達を助けるの、一緒に手伝わせてよ。  
まずはロイ様に、少しでもいいから力を貸してくれるよう頼んでみるからさ。

大丈夫、ロイ様ならきつと聞いてくれるから

「ルウ」  
ありがとうっありがとうウォルトさん！

「ウォルト」  
友達に協力するのは当然の事だろう？頑張ろうね、ルウ。死んだら駄目だぞ

「ルウ」

うんっウォルトさんも！

## パント&プリシラ(前書き)

プリシラと、プリシラの、旅の手引きをしたパントの会話。

## パント&プリシラ

パント&プリシラC

「プリシラ」

パント様！？まさかお会い出来るなんて・・・光栄に思います。

「パント」

プリシラ？何故このような所に？

「プリシラ」

はい、途中でやむにやまれぬ事情がありまして・・・  
ラウスから、エリウッド様の旅に同行させていただきました。

「パント」

そうか・・・苦勞をかけたね。

「プリシラ」

いいえ。カルレオン家と親しい間柄とは言え、  
養女である私の相談に快く乗って下さった上に配慮まで・・・  
パント様には本当に感謝しています。

「パント」

気にする必要はないよ、家族を心配する君の気持ちはよく分かるか  
らね

「プリシラ」

はい・・・

「パント」

そうそう、エルクは君の護衛の任をちゃんと果たしていたかな？

「プリシラ」

はい、もちろんです。それはそれはよくして頂きました。

パント&プリシラB

「パント」

プリシラ、無事かい？

「プリシラ」

はい。パント様の心遣い……本当に感謝しています。

ところでパント様、あの……つかぬ事をお尋ねしますが……。

「パント」

？何だね？

「プリシラ」

エトルリアの、お父様やお母様はお元気でしょうか……？

「パント」

とりあえずは、つつがなく暮らしていらっしゃる。

「プリシラ」

そうですね……ああ良かった……。あの、まだ小さい妹のセシリアは……？

「パント」

もちろん元気にしているさ。あの子には幼いながらも素晴らしい魔

道の才を感じる。

これからどうなるのか先が楽しみだよ。  
もしかしたら、私の後を継ぐのはあの子かもしれない。

「プリシラ」

くすっそうですか・・・

現エトルリア魔道軍将であるパント様にそう言われるなんて、妹も喜びます。

「パント」

ありがとう。では、そろそろ失礼するよ。くれぐれも体には気を付けるように。

「プリシラ」

はい、ありがとうございます・・・。

## アレス&デルムツド(前書き)

正真正銘の、従兄弟会話です。歳はアレスの方が上なのですが、彼より大人びているデルムツドです。

## アレス&デルムツド

アレス&デルムツドC

〔デルムツド〕

貴方がエルトシャン王のご子息、アレス王子ですか

〔アレス〕

ああ、そうだがお前は？

〔デルムツド〕

私はデルムツドと申します、エルトシャン王の妹、ラケシスの息子です

〔アレス〕

何！？叔母上の？

〔デルムツド〕

はい、ですが私に母の記憶はありません。

レヴィン様より、母は貴方を探す為にレンスターへ行ったと聞きましたが…

〔アレス〕

…すまない、俺は、叔母上を知らない…

母は先の戦いで死に、その際ジャバローに拾われてあちこちを傭兵として巡った

〔デルムツド〕

そうでしたか…グラニーエ様が…

アレス&デルムツドB

「アレス」

デルムツド、お前はずっとセリスと共にいたのか

「デルムツド」

ええ、そうです

「アレス」

何故そんなに冷静なのだ、俺はわが父エルトシャンを殺した男の息子と聞いた

「デルムツド」

まさか。私は、伯父上とシグルド様は親友だったと聞いています

「アレス」

……

「デルムツド」

王子はセリス様を誤解していらっしやる。

厳しい事を言いますが、どちらも将来は王となられる身。

真の意味で平和を望むなら将来芽を吹きそつな禍根を残してはいけません

王子はもっとセリス様と話をすべきです

「アレス」

…分かった、お前がそこまで言うなら考えてみよう…

「デルムツド」

セリス様は、とても喜ばれるでしょう

アレス&デルムツドA

〔デルムツド〕

アレス王子、無茶はしないで下さい。アグストリア再建に王子は不可欠な存在なのですから

〔アレス〕

分かっている、アグストリアは俺が立派な国にしてみせる。父上の為にもな・・・

〔デルムツド〕

分かかってらっしゃるなら大丈夫ですね。

それが我が母、ラケシスの望みでもあります。お忘れなきよう

〔アレス〕

デルムツド、お前も手伝ってくれるだろう

〔デルムツド〕

もちろんです、それこそ私の役目

〔アレス〕

なあ、俺たちは従兄弟だろう？そろそろ敬語はやめないか？

〔デルムツド〕

ふっ…では宜しく、アレス

## ランス&ユーノ（前書き）

ランスとイリア三姉妹ネタも、これにて終了でございます。

## ランス&ユーノ

ユーノ&ランスC

「ユーノ」

あなた…ランス？

「ランス」

ユーノさんっお久しぶりです！

「ユーノ」

まあ、やっぱりあなただったのね！

「ランス」

はい、ありがとうございます。お体の方は平気ですか？

「ユーノ」

大丈夫よ、ありがとう。それよりランス…生きていてくれて本当に嬉しいわ。

皆も私も、あなたも仲間と共に死んだのだと思っていたの

「ランス」

…俺は主人と仲間…何もかもを失い、失意の中流浪していました。

そして今の主人ロイ様の父上エリウッド様に出会い、

ロイ様を主人とし、同時に護衛する任を受けた時、

騎士としてやり直すチャンスを与えられたのだと思いました

「ユーノ」

話を聞く限りあなたやあなたの仲間…咎は無いわ。

けれど、あなたはイリアへ帰って来なかった…それはどうして？

〔ランス〕

今の主人であるロイ様を守り抜く…  
せめて、ロイ様を失わないと言う確信が持てるようになるまで  
イリアへ帰らないと決めたいです

〔ユーノ〕

そう…あなたがそう言うのなら、きっと大丈夫ね

ユーノ&ランスB

〔ユーノ〕

あなたのご両親…ケント様とフィオーラ様には、フェレで働いてい  
るとは伝えてあるの？

〔ランス〕

ええ、随分と前に

〔ユーノ〕

あなたがイリアの傭兵だったと言う事は、皆さんは知っているの？

〔ランス〕

エリウッド様はご存知ですが…  
後は、ユーノさんのようにこの軍に加わったイリアでの顔見知りか  
少しです

〔ユーノ〕

そう…

「ランス」

でも、ユーノさん…できる限り軍の皆には…

「ユーノ」

ええ、あなたのけじめがつくまで私から言つつもりは無いから

「ランス」

ありがとうございます！

言い遅れましたが、かつての天馬騎士団の部隊長と共に戦えるのは  
光栄です」

「ユーノ」

まあ、ランスつたら

ユーノ&ランスA

「ユーノ」

ねえ、ランス

「ランス」

はい、何でしょう？

「ユーノ」

あなたがイリアの傭兵であった事…

幼い日の事…過去を皆に話さないのはどうして？けじめをつける、  
だけではないわよね？

「ランス」

…一度、過去を口にしてしまうと、どうしてもその話になります。

そうなれば帰りたくてたまらなくなるかもしれない…それが恐いのです

「ユーノ」

ふふっ。それを聞いて安心したわ。あなたの話を聞いているとね、もしかしたら貴方はイリアを忘れてしまつつもりなのかと思ったの

「ランス」

！そんな事は…何と云うか、俺の故郷ですから。でっでは失礼します！

（ランス消える。

「ユーノ」

うふふ、とても強い所も、  
それでいて淋しがりやな所も変わらずね…やはり、タイトそっくり  
だわ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1973b/>

---

FE 支援会話

2010年10月9日14時27分発行